

多様な農業体験・里山体験のプログラムを整備し、1ターン促進

#### 44. 綾部市域の里山【京都府綾部市】

範	囲	鍛冶屋町周辺の田畑・共有林を中心に、市内他地区にも拡大しつつある。																							
所	在	京都府綾部市鍛冶屋町周辺																							
位	置	北緯 35° 20' 28" 東経 135° 12' 06"、京都市から約 80km、京都縦貫自動車道と舞鶴若狭自動車道が交差																							
生	物	地	理	区	分	コナラ林(西日本)																			
環	境	要	素	水田、人工林																					
自然条件	地	形	鍛冶屋町を含む市の中・西部は比較的平坦な丘陵地帯となっており、市街地を由良川が貫流している。東部は山間地であり、鍛冶屋町周辺は周囲を標高 200～300m程度の山に囲まれた小規模な盆地地形をなしている。		 <p>撮影時期：H16年9月 休耕田を利用したそば栽培(そばの花)</p>																				
	植	生	・	生物等		田園の周囲にはコナラ・アカマツなどの二次林が広がり、スギの植林地も点在している。																			
社会条件	人	口(市町村)	35,849人(農家率 19.9%、) 綾部市のデータ(H22年)																						
	土	地	利	用	市総面積の 7.9%が田畑、76.7%が山林である。綾部市のデータ(H22年) 市の耕作地面積の約 2割弱が鍛冶屋町を含む豊里地区であり、市内一の農業地帯である。																				
	歴	史	・	文化	綾部市は養蚕を地場産業として発展。その後繊維産業衰退の影響を受け、桑畑は茶園などに変更された。近年では自然環境に恵まれていることもあり、多くの芸術家が市外から移住し、陶芸、和紙、染織などの分野で活動を展開している。 過疎・高齢化が市の課題となっており、平成 19年には全国に先駆け、いわゆる“限界集落”の活性化を目指す「水源の里条例」を施行し、集落での定住や特産品開発などを支援している。																				
法 指 定 、 行 政 に よ る 評 価 の 状 況	自	然	環	境	・	景	観	保	全	や	国	土	保	全	に	関	わ	る	地	域	指	定	等	該当なし	
	す	ぐ	れ	た	自	然	、	景	観	、	伝	統	文	化	な	ど	と	し	て	の	選	定	環境省「里地里山保全再生モデル事業」の対象地域として選定 読売新聞社「日本の里地里山 30 保全活動コンテスト」の 30 団体の一つとして選定(H16)		

綾部市域の里山				
取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		NPO法人 里山ねっと・あやべ	都市と農村の交流から定住促進に向けて各種事業に取り組み、地域の活性化に寄与することを目的に活動。	
経緯	里山・農村部の魅力を市内外にPRし、都市と農村の交流や第二の人生の場としての綾部定住化を促進しようと「里山ねっと・あやべ」が H12 年に設立された。翌年、京都府の「共育の森づくり事業」の補助を受け、行政主導で森林ボランティア活動を開始した。遊休農地を活用した「あやべ里山そば塾」、綾部里山交流大学の開校など、活動の幅を広げている。			
支援措置	京都府の「共育の森づくり事業」			
取組の目的・目標	里山の魅力を内外に伝え、都市と農村の交流や「ターン」を促進することを目的とし、里山や遊休農地の保全活動をしながら多様な農業体験、自然体験のプログラムを提供する。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会		
		環境教育・学習活動		
		里地里山体験・環境保全	竹炭焼窯での竹活用を実施。	
		農林業体験活動	休耕田を利用した米作り体験やそば作り体験を実施。	
		エ コ ツ ア ー	峠古道ウォークを実施。	
その他	廃校となった小学校を改装し、研修・宿泊施設として運営(里山交流研修センター)、農家民泊システムを整備。 新しい型の価値創出(ビジネスモデル、地域づくり、ライフスタイル、生き方など)につながる人材育成と人の交流を目的に、綾部里山交流大学(短期集中セミナー)を実施。			
野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし			
地域の良好な景観の保全・修復	都市住民と地域住民に森林ボランティアを募集し、荒廃した山林の整備を行っている。現在は山林の遊歩道整備や、竹林の整備と伐採した竹を利用した竹炭作りなどの活動を実施。 休耕田を利用した米作り体験やそば作り体験を実施。			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
	該当なし			
連携・協働	里山ねっと・あやべは、市の施設である里山交流研修センターの管理運営とともに、農村と都市の交流事業の実施についても市から事業を委託されている。 森林ボランティアは行政職員と地域住民、都市住民が参加し、参加者が活動の内容を決め、作業を行うクラブ活動的な組織となっている。 農業体験は、地元農家が講師となり都市住民に農業を指導している。			



撮影時期：H21年1月

森林ボランティアで整備した山林(間伐、遊歩道整備、ウッドテラス作成)

撮影時期：

茶摘体験(「NPO 法人里山ねっと・あやべ」HPより)

景観としての  
利用・評価

田舎暮らし志向の来訪客が多い

取組の特徴

農村と都市の交流を行政と市民が協働で実施、地域振興と移住促進につながっている。  
 里山ねっと・あやべは、行政と市民が協働で農村と都市との交流による地域の活性化を目的に立ち上げた組織で、行政と地域住民、都市住民の協働の中で取り組みが推進されている。  
 石窯で作るパン焼き体験や、お米、そば、お茶といった農業体験の提供、森林保全のための森林ボランティア活動など農村と都市の交流により「綾部ファン」の獲得と、移住促進を図っている。  
 平成18年3月に法人化し、組織として確立するとともに、都市住民に滞在場所を提供するための宿泊事業の実施、グリーンツーリズムの普及と地域活性化に資する人材育成を目的とした「綾部里山交流大学」の開校など、その活動を広げながら地域の活性化を図っている。

【参照資料】

NPO 法人里山ねっと・あやべHP (<http://www.satoyama.gr.jp/>)

綾部市HP (<http://www.city.ayabe.lg.jp/>)